

年 組 名前:

山梨教育、経済の指数悪化

男女平等度 政治2年連続最下位

上智大の三浦まり教授らでつくる「地域からジェンダー平等研究会」は8日の国際女性デーに合わせて、各地域の男女平等度を政治、行政、教育、経済の4分野で分析する「都道府県版ジェンダー・ギャップ指数」の2025年版を公表した。山梨は教育と経済の2分野で指数が悪化し男女平等度が後退。全国順位も経済を除く3分野で40位台と低迷している。

ジェンダー・ギャップ指数の山梨県の情報は15面、全国の情報は3面の改善幅がより大きければ、相対的に全国順位は下がる。山梨県は教育の指数が0.536で前より0.007悪化。高校の校長の男女比など2項目が悪化したことが影響し、順位も二つ下げ45位だった。経済は0.437で前より0.002減の0.437で順位は前回と同じ6位。フルタイムの仕事に従事する男女の賃金格差が拡大するなどし、平等度を押し下げた。

政治は、指数がわずかに改善したが2年連続で全国最下位だった。市区町村議会の男女比が改善したほか、県議会の男女比では、昨年5月に男性県議が辞職したことで女性比率が上がった。行政は指数が改善し、順位も一つ上げ45位となった。都道府県職員の育休取得率などの男女格差が縮小。山梨県は男性職員の育休取得率100%を掲げていて、取り組みを進めた結果が反映された。

三浦教授は「山梨県内には女性団体のネットワークはあるものの、行政との連携がない。女性社長も多く、行政がジェンダーギャップ解消に乗り出すことは企業への波及効果も期待できる」とした。

4分野の首位は政治が東京、行政が鳥取、教育が徳島、経済が高知だった。

ジェンダー・ギャップ指数 山梨

行政	0.245	45位↑	(46)
教育	0.536	45位↓	(43)
経済	0.437	6位→	(6)
政治	0.141	47位→	(47)

指数が1に近づくほど男女平等
.....は全国平均、()は前年順位

レーダーチャートの見方 都道府県版ジェンダー・ギャップ指数に基づき、政治、行政、教育、経済の4分野の男女平等度を多角形で表している。面積が大きくなるほど平等度が高く、全分野でバランスよく男女平等が進めば正方形に近づく。指数は各分野で1に近いほど平等を示すが、このグラフではほとんどの都道府県で値が0.1~0.6台のため、中心を0、外側を0.7とした。

台松優

(2025年3月8日付 山梨日日新聞 26面)

問1 「都道府県版ジェンダー・ギャップ指数」の2025年版が公表されました。分野別の山梨の順位を教えてください。

・政治:.....位 ・行政:.....位 ・教育:.....位 ・経済:.....位

問2 「行政」が、順位を上げた理由を教えてください。

.....

問3 分野別の首位の都道府県を教えてください。

・政治:..... ・行政:..... ・教育:..... ・経済:.....